

科目 コード	11140	授業 科目	哲 学 (Philosophy)			担当 教員	○大城信哉(非常勤)		
開講年次	1年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	教養科目		授業 形態	講 義	
選択必修	選 択	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	「自我」「自然」「人間」のありよう等について哲学的に考察する力を身につけられるように 具体的事例と結びつけて、哲学とは何かを学習する。								
到達目標	1. 批判的に検討する姿勢を学び、多角的かつ合理的に考えられるようになる。 2. 哲学的な考え方について、具体的な事例に即して説明できるようになる。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>講義担当者は講義内容を準備してくるが(あたりまえである)、受講者から問題提起があればそちらを優先しても良い。以下はあくまで叩き台として提示するものである。受講者諸君に哲学にこういうことを期待したいという希望があれば、ぜひ聞かせてほしい。</p> <p>講義概要および哲学の概略的紹介、受講者諸君との合意作り</p> <p>哲学という考え方について (1) 反省ということ</p> <p>哲学という考え方について (2) 自然と規範</p> <p>哲学という考え方について (3) 「私」とは誰か</p> <p>哲学という考え方について (4) 人間であること</p> <p>論理的に考えるために 思考と言語</p> <p>哲学の始原 (1) 古代ギリシア：神話からソフィストまで</p> <p>哲学の始原 (2) ソクラテス</p> <p>哲学の始原 (3) プラトン</p> <p>哲学の始原 (4) アリストテレス</p> <p>現代社会と哲学 (1) 科学について</p> <p>現代社会と哲学 (2) 宗教について</p> <p>現代社会と哲学 (3) 美と芸術について</p> <p>現代社会と哲学 (4) 生命について</p> <p>まとめ 哲学の自己批判</p>					各講義時に説明。全体的に言うなら予習は不要、しかし復習は必要である。	大 城	講 義	
テキスト	使用しない。資料を適宜配布する。								
参考文献	教室にて指示する。								
他科目との 関連	合理的かつ批判的な思考はすべての学問に必要なので、他科目全般に通じよう。								
成績評価 の方法	全15回を終えたあとにレポートを課すつもりだが、受講者の希望によっては試験にするかもしれない。このところは第1回講義時に受講生諸君と協議したい。								
学習相談・ 助言体制	講義中もしくは講義終了時に質問あるいは相談してくれたら、その都度対応する。								
授業改善の 特記事項	授業評価に記された授業への要望等を必要に応じて取り入れていく他、学期中でも受講者諸君の気づいたところがあれば言ってほしい。改善すべきところがあれば随時改善する。								
備 考	取り立てて事前の知識は必要としないが、受講者諸君の積極的な参加を希望する。哲学が考える問題とは生きること、自分自身であること、正しくあることなど、すべての人にかかわるもので、決して一部専門家だけにかかわるものではないのだから。								

科目コード	11110	授業科目	心理学 (Psychology)			担当教員	○渡久山朝裕		
開講年次	1年次 前期	単位数	2単位	科目分類	教養科目		授業形態	講義	
選択必修	必修	時間数	30時間						
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	心理学の主要な領域からの研究成果やトピックにふれつつ、人間の心と行動、文化に理解を深め、心理現象のメカニズム、内省、コミュニケーション、集団力動等について学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の専門用語を学び、適切に使うことができる。 2. 人間の心と行動の諸特徴を知る。 3. 自己および他者の内面で動いている心理現象に気づくことができる。 4. ストレスと心の健康について理解できる。 5. 集団の特徴について知る。 								
授業回数	授業内容及び計画				事前・事後学習	担当者名	授業形態		
第1回	授業の概要説明					渡久山	講義		
第2回	心理学とは				P1-12				
第3回	感覚と知覚①				P13-31				
第4回	感覚と知覚②								
第5回	記憶				P33-51				
第6回	学習				P73-94				
第7回	感情と動機づけ				P95-118				
第8回	性格とパーソナリティ				P119-134				
第9回	社会と集団				P143-166				
第10回	発達①				P167-194				
第11回	発達②								
第12回	心の健康①				資料				
第13回	心の健康②				資料				
第14回	フロイトの精神分析：理論と治療法				資料				
第15回	医療・看護と心理				P223-242				
テキスト	系統看護学講座 基礎分野「心理学」：山村豊・高橋一公 医学書院 ¥2,300								
参考文献	適宜、紹介する。								
他科目との関連	「人間関係論」「臨床心理」での学習につなげる。								
成績評価の方法	ミニ・レポート12%、期末レポート20%、期末試験68%								
学習相談・助言体制	毎回の授業の終了時に提出させる出席カードに、理解できなかった内容、疑問に感じた点等を記述させ、次回の授業の冒頭で説明・補足を行う。								
授業改善の特記事項	心理学の様々な分野に関する文献を検索し、報告するミニ・レポートを学期中に3回程度、課すことで心理学の幅広さを理解させ、興味・関心を喚起し、図書館になじませる。								
備考	テキストの該当ページを読んで授業に参加すること。								

科目 コード	11130	授業 科目	教育学 (Education)			担当 教員	○浅野誠(非常勤)	
開講年次	2年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	教養科目		授業 形態	講 義
選択必修	選 択	時間数	30時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	人間関係 学校教育 学校外教育 教育の歴史 教育と社会 学校改革 教育内容 教育方法 授業 ワークショップ 教科外教育 教育における個人と集団 教育と健康 世界の教育 進路指導 人生創造と教育 参加							
到達目標	1. 教育についての関心・認識・考えを広げ深めること 2. 受講生相互の協同的知的活動を通して、教育の前提である人間関係を広げ深めること 3. 教育的発想・教育的関わりの初歩を体験的に学びとる							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	教育と人間関係 学校 学習 教育内容 出会い／発見・協同 教科 学校と社会 教育環境 教室 相手・課題・場面に応じた指導方法 人生創造と教育 生涯学習 進路指導 参加型教育1 参加型教育2 健康と教育 国際的難題と教育 世界と教育 政治経済と教育 同上 自己評価 他者評価				テキストNo.3, 4, 26 2, 5. 10 27, 31 29 7, 8 13, 15, 16 19, 21, 受講生によるワーク 24, 33 23 23, 受講生ワーク 23, 受講生ワーク 自己評価・他者評価	浅 野	講 義	
テキスト	「浅野誠ワークショップシリーズNo.7 楽しいワークショップ」							
参考文献	浅野誠「沖縄おこし・人生おこしの教育」、浅野誠「<生き方>を創る教育」 ほか							
他科目との 関連	授業科目全般							
成績評価 の方法	1) 毎回のレポート(予習・中間メモ・最終メモを含む)7回 各1~0ポイント 2) 特別レポート 3回 各5~0ポイント 3) ワークショップづくりなど、授業過程での貢献 随時0~3ポイント 以上の総計×4で算出した点数を、看護大学評価基準にあてはめて評価する。							
学習相談・ 助言体制	授業前後の時間での面談 メールによる相談							
授業改善の 特記事項	授業評価に記述された授業への要望等を必要に応じて取り入れていく。							
備 考	考えを出し合いつつ、クラスメイトとの多様な交流協同活動を軸にした大変活動的な授業です。与えられたものをこなすという受身型ではありません。積極的な行動が期待されます。							

科目 コード	11160	授業 科目	文学 (Literature)			担当 教員	○波平八郎(非常勤)		
開講年次	1年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	教養科目		授業 形態	講 義	
選択必修	選 択	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	人間理解を深められるように、文学作品を解釈並びに享受するための様々な方法論を概観するとともに、沖縄の文学作品についても学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物語の構造分析の理論を説明できる。 2. ある物語についてその理論を適用して分析することができる。 3. 日本および沖縄の文学の代表的な作品についてその概要を説明することができる。 								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	オリエンテーション 読むための理論 プロップの理論 物語の構造分析① 物語の構造分析② 物語の構造分析③ 物語の構造分析 (ヒーローズジャーニー) 大江健三郎の文学観 レジリエンス文学論① レジリエンス文学論② 沖縄の文学 (琉歌①) 沖縄の文学 (琉歌②) さまざまな文学① (『ナビィの恋』) さまざまな文学② まとめ				[1-2] レポートの 作品を決定。 [3] 配布資料 [4-6] 作品を分析 しレポートにま とめる。 [7] 配布資料 [8-9] 配布資料 [10-12] 配布資料 [13-14] 映像資料	波 平	講 義		
テキスト	なし。授業中に適宜資料を配布する。								
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大江健三郎『新しい文学のために』(岩波新書) 2. 沖縄県教育文化資料センター編『新編 沖縄の文学』(沖縄時事出版) 3. その他 								
他科目との 関連	他のすべての科目をとおして、言語表現の方法について意識的であることを心がけること。								
成績評価 の方法	出席10%、学習参加状況・課題レポート20%、試験70%								
学習相談・ 助言体制	授業に関する質問はメールで送ってください。 namihira@okigei.ac.jp (沖縄県立芸術大学)								
授業改善の 特記事項	教員と学生のインタラクティブ(対話的)な授業にするために、受講生は授業中にレポートや意見の発表が求められます。								
備 考	なし								

科目 コード	11170	授業 科目	歴史学 (Historical Science)			担当 教員	○前田 勇樹(非常勤)		
開講年次	1年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	教養科目		授業 形態	講 義	
選択必修	選 択	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	歴史や文化がどのように作られてきたかを理解するために、人間の活動や人物像を通して歴史を学習する。								
到達目標	本講義では、「遊び」「身近な歴史」「病気」「イメージ」「歴史的転換期」など各テーマを通して、琉球・沖縄の歴史を中心に歴史の「考え方」を学び、広い視野や柔軟な発想力の習得を目指す。そのため、本講義の内容は琉球(沖縄)に留まらず、日本・小笠原・北海道やアジアをはじめとする世界の歴史と関連させた内容となっている。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回	ガイダンスー覚える歴史から、考える歴史へー				事前、事後学習や学習課題については、各講義時に説明する。	前 田	講 義		
第2回	大学でのレポート・テスト・論文とは						〃		
第3回	遊びから考える① 琉球版人生ゲームをやってみよう！						〃		
第4回	遊びから考える② 「聖人上」と近世の琉球社会						〃		
第5回	歴史を歩く① 「上り口説」を歩いてみた！						〃		
第6回	歴史を歩く② 「書を持って街へ出よう」						〃		
第7回	病気と歴史 ペスト・梅毒の世界史						〃		
第8回	病気と歴史 コレラ・天然痘の世界史と琉球・沖縄						〃		
第9回	中間テスト						テスト		
第10回	琉球・沖縄イメージの歴史① 近世～明治期						講義		
第11回	琉球・沖縄イメージの歴史② 戦前～復帰前						〃		
第12回	琉球・沖縄イメージの歴史③ 戦後から現在へ						〃		
第13回	琉球処分とその時代① 先行研究と歴史認識						〃		
第14回	琉球処分とその時代② 同時代を広い視野から						〃		
第15回	まとめ						〃		
テキスト	特になし。講義の際にプリント配布								
参考文献	安里進他『沖縄県の歴史』(山川出版会、2004年)、石原俊『近代日本と小笠原諸島ー移動民の島々と帝国』(平凡社、2007年)、上里隆史『マンガ 沖縄・琉球の歴史』(河出書房新社、2016年)、『沖縄県史』各論編6 沖縄戦(沖縄県教育委員会、2017年)、『沖縄県史』各論編5 近代(沖縄県教育委員会、2011年)、多田治『沖縄イメージを旅する』(中公新書ラクレ、2008年)、立川昭二『病気の社会史ー文明に探る病因』(岩波現代文庫、2007年)、ティネッコ・マルコ『世界史からみた「琉球処分」』(榕樹書林、2017年)、ラブ・オーシュリ、上原正稔編『青い目が見た大琉球』(ニライ社、1987年)など ※そのほか講義のなかで適宜紹介する。								
他科目との 関連	授業科目全般								
成績評価の 方法	平常点40%、中間テスト20%、期末テスト40%。無連絡欠席4回で不可とする。 ※平常点は毎回授業の最後書いてもらうリアクションペーパーで評価します。								
学習相談・ 助言体制	講義に関連したことについて、レポートなどを書かせて発展学習を促す。また、毎回質問を受け対応し理解を助ける。								
授業改善の 特記事項	講義内容を伝達するための講義資料を作成して配布する。								

備考

高校までの「歴史」は歴史事象や年号の暗記が主であるが、大学で学ぶ「歴史学」という学問には暗記ではなく「考える」ことが求められる。ある物事や事件、出来事について時系列から、広い視野から、もしくは今と繋げて考えることで、何気ない出来事から多様な側面が見えてくるだろう。琉球・沖縄の歴史に関心のある学生や、沖縄の事もっと知りたいけど歴史の授業が苦手(嫌い)だった学生を歓迎します。